



西区 開削200年の新川を通したまちおこし

西区を流れる新川は、地域を水害から守るため200年前に人の手で作られた川です。地域住民などで結成された「越後新川まちおこしの会」は、川の歴史や先人の思いなどを多くの人に知ってもらい、未来のまちづくりにつなげる活動をしています。

この会は約13年前、地域の人に新川の歴史を知ってもらいたいと結成されました。子どもたちと舟で川から町を見たり、水質調査や川の清掃などをしたりしています。新川の魅力発信を続け、若者からお年寄りまでみんなで、この地域の良さを未来につないでいきたいです。新川や内野地区の歴史を振り返る写真展を開催したいと思っているので、昔の写真をお持ちの人はぜひお知らせください。



西川の下に立体交差する新川 中学生と一緒に新川を清掃 水をかき出す機械「踏み車」の体験

西蒲区 「にしかん なないろ野菜」で新たな産地づくり

色や形、大きさなどに特徴のある珍しい野菜に「にしかん なないろ野菜」というブランド名を付け、区の新しい特産品となるよう取り組んでいます。現在は約30人の生産者が50品種ほどの野菜を生産・販売し、もうかる農業の実現も目指しています。

なないろ野菜の「マッチャン」や「バターナッツカボチャ」などを栽培しています。マッチャンは夏にたくさん採れる野菜でズッキーニよりも柔らかくて食べやすく、天ぷらにすると絶品です。来年の夏を楽しみにしてください。なないろ野菜は彩りが良く、料理に色が欲しいときに重宝します。皆さんにたくさん味わってほしいので、これからも丹精込めて作り続けたいです。



マッチャン(韓国カボチャ) 主な「なないろ野菜」 農産物直売所越王の里(西蒲区竹野町)で販売

中央区 若い力で地域を活性化「はじめて、しもまち。」

新潟柳都中学校区周辺の「しもまち」は、江戸時代に北前船の往来で栄え、今も湊町文化が息づいています。しもまちの魅力を伝え若者を呼び込もうと若手クリエイターたちが活動し、SNSや動画サイトで作品を発信しています。詳しくは市ホームページや同プロジェクトホームページ、SNSなどに掲載

しもまちは小さな路地や昔の風情を感じる街並みがあり、ゆったりとした時間の流れを感じられます。ここで「はじめて」見て感じたことをアーティストや映画監督、写真家、イラストレーターなどが作品にして発信しています。今後地域の皆さんの協力を得て、さまざまな企画をしていく予定です。訪れた人に「なんだかいいところだな」と思ってもらい、しもまちファンを少しずつ増やしたいです。



路地裏(フォトグラフィア片桐悠太さんの作品) 日和山展望台から(同) 旧小澤家住宅(同)

南区 「みなみーて地域応援隊」が南区の魅力を発信中

南区には、首都圏から移住し区民と一緒に地域の魅力発信や観光分野のサポートをする地域おこし協力隊「みなみーて地域応援隊」がいます。区役所と共に移住・関係人口の増加を目指す取り組みをしています。

今年は地域の農家や白根高校の生徒と一緒に農業体験を企画・実施したり、農家が農産物の魅力をライブ配信で紹介するオンラインツアー開催に関わったりしました。南区には観光農園や風など外国の人から注目される地域資源があるので、今後は国外から観光に来てもらえるような取り組みもしてみたいです。また、私の目線で南区の魅力を紹介する「しろねこチャンネル」をYouTubeで配信しているので、ぜひご覧ください。



高校生と一緒にツアーを企画 農業オンラインツアーの様子 南区の広い空と水田



市民と行政が協働し、各区の特色を生かしたまちづくりを行っています。今回は、まちづくりに取り組んでいる人に話を聞きました。



東区 歴史のロマンを感じに来てみませんか

東区には日本最古の城柵「浄足柵」があったといわれ、牡丹山諏訪神社古墳など、古代日本の重要な歴史的スポットもあります。学識経験者や地域住民などで構成する「東区歴史浪漫プロジェクト」では、それらを多くの人に伝え、地域の誇りづくりに取り組んでいます。

牡丹山諏訪神社古墳や北国街道沿いの寺や神社などの史跡は、地域の宝です。これらについて知ってもらうため、写真を撮りながらまち歩きをするガイドをしたり、小学生に地域の歴史を教えたりしています。東区にはさまざまな産業が集まっており、区内に点在する工場の夜景も区の魅力の一つです。これらの区の誇りを子どもから大人まで区内外の多くの人に伝え、地域を発展させていきたいです。



まち歩きの様子 東区応援団長 浄足備通(ぬたりん) 「沼垂城」と書いてある木簡(平成2年八幡林遺跡から発掘)

秋葉区 区一丸となってもち麦を新たな地域ブランドに

新たな特産品づくりの取り組みとして、区内産の「秋葉の里 白雪もち麦」の地域ブランド化を目指しています。生産者や福祉施設、大学、JA、飲食店などが一体となって6次産業化にも取り組んでいます。詳しくは「秋葉の里 白雪もち麦」検索

お世話になっている地域の人たちへの恩返しのため、自分の店を持ったら区内産の食材を使うと決めていました。麺の相談をした農家さんに白雪もち麦を紹介され、福祉施設で製粉したものを製麺所に掛け合せて麺にしました。香りが良くもちもちとしているのが特徴です。今後はチャーシューとスープも含め材料の全てを区内産にするのが私の夢です。ラーメンを通して区の魅力を伝えていきたいです。



秋葉の里 白雪もち麦 もち麦麺のつけめん もち麦畑

北区 福島潟の魅力が高校生が発信

北区区役所地域総務課(☎025-387-1155) 水の駅「ビュー福島潟」(☎025-387-1491) 北区自治協議会では、潟の魅力幅広い世代の人に知ってもらおうと、県立豊栄高等学校の生徒と一緒にPR動画を制作しています。潟の魅力を高校生の視点で発信し、潟のにぎわいづくりにつなげていきます。※完成動画は来年1月ごろYouTubeの「新潟シティチャンネル」で公開予定

福島潟には小さい頃から親と一緒に来ています。さまざまな鳥や植物などを見ることができ自然豊かなところ。動画には潟舟から撮影した鳥の様子や普段聞くことのできない水中にいる生き物の音などを入れたので、臨場感のある映像になっていると思います。福島潟を知らない人や若い人たちなどがこの動画を見て、興味を持ってくれたり、潟に来て自然を感じてくれたりしたらうれしいです。



オニバス池の撮影 潟舟に乗って撮影 区自治協議会委員と高校生の話し合い

江南区 田植え杵を活用した「わく灯籠」でふるさとのぬくもりを

大正～昭和初期に田植え作業に使っていた木杵を灯籠に加工したものを、夏の時期に亀田駅や亀田排水路公園などに展示し、優しい明かりでまちを照らしています。夏以外は商店街に飾るなどして、地域のにぎわいづくりを行っています。詳しくは「わく灯籠まつり」実行委員会Facebookなどに掲載

地域の夏の風物詩として約12年前から灯籠を作り始め、今では200個以上になりました。今年は感染症の影響で新作を作れませんでした。例年小中学生に映し出される絵を描いてもらっています。わく灯籠は、地域の皆さんの絆を深める温かい明かりです。子どもたちが大人になって「亀田ってやっぱりいいところだな」と思えるように、今後も変わらない風景としてずっと続けていきたいです。



わく灯籠 小学生による灯籠作成の様子 田植え杵を使った農作業の様子